

第6次白老町総合計画策定に向けた 「団体ヒアリング」

【結果報告書】

令和元年9月

白老町
企画課企画グループ

第6次白老町総合計画策定に係る団体ヒアリングの実施概要

1. 実施目的

町民意識調査等では拾いきれない団体・属性に対する多様な意見を聴取し、第6次総合計画の策定素材として活用することを目的とする。

2. ヒアリング内容

下記の団体を対象に、個別テーマを設定して、ヒアリングを実施する。

No	属性	団体等	テーマ
1	子育てママ	すくすく3・9利用者	子どもの将来に対する考え方
2	外国人定住者	—	日常生活で不便に感じる事
3	若手事業者 ・経営者	白老青年会議所	町の将来に対する考え方
4	役場職員	若手職員（20代）	地域との関わり方に対する考え
5	移住者	地域おこし協力隊	外から見えた白老町の強みと弱み
6	一次産業 （漁業）	白老漁組青年部OB	一次産業の将来に対する考え方
7	一次産業 （畜産）	とまこまい広域農協青年部	一次産業の将来に対する考え方
8	町内会	町内会長	町内会における今後の課題と 取り組み

※ NO8町内会においては、アンケート形式にて意見を聴取する

3. 実施日程

属性（団体）		実施日時	出席者
1	子育てママ （すくすく3・9）	令和元年6月6日（木）10:30～12:00	3名
		令和元年7月8日（月）10:30～12:00	3名
2	外国人定住者	令和元年5月30日（木）10:00～11:15	1名
		令和元年6月11日（木）15:00～16:15	2名
3	若手事業者・経営者 （白老青年会議所）	令和元年6月13日（木）14:00～15:30	3名
		令和元年7月8日（月）17:00～18:00	1名
		令和元年7月10日（水）10:00～11:30	1名
4	役場若手職員 （20代）	令和元年7月3日（月）15:30～17:00	5名
5	移住者 （地域おこし協力隊）	令和元年5月30日（木）13:00～14:00	2名
		令和元年6月6日（木）13:00～14:00	1名
		令和元年6月11日（火）13:00～14:00	3名
6	一次産業（漁業） （JF青年部・OB）	令和元年8月21日（水）12:00～13:30	1名
		令和元年8月23日（金）14:00～15:30	2名
7	一次産業（畜産業） （JA青年部）	令和元年8月27日（火）17:00～18:30	3名
8	町内会長 （アンケート調査）	令和元年7月29日（月）～8月9日（金）	84名
合 計			115名

団体ヒアリングシート

ヒアリング実施日	令和元年6月6日(木)、令和元年7月8日(月)
ヒアリング団体	子育てママ(すくすく3・9利用者)
テーマ	子どもの将来に対する考え方
<p><ヒアリング要旨></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 白老町の子育て支援については、満足している。子どもの検診の回数も多く親切で温かい。 ○ 子育てはしやすいが、産婦人科が無いことが不便。小児科も休診日があり、何かあった時に不安である。 ○ 子どもを安全に遊ばせるための場所が少ない。すくすく3・9やピヌピヌも利用しているが、大きい子どもが遊ぶには施設がせまい。 ○ 人のつながりが強く、地域で見守られている安心感がある。まちの小ささや人の近さが白老のいいところだと思う。 ○ 人と人の距離が近く、何かが生まれやすい。自己実現がしやすいまちだと思う。 ○ 日用品は基本的に町内で買い物しているが、価格が高い。また、食品や重たいものなどはトドックを利用したり、ネット等で購入することが多い。 ○ 情報についてはネットニュースやテレビ、人づてに入手している。町の広報紙等はほとんど見ない。 ○ 父親の子育てへの関わり方については、家事等を積極的に手伝ってくれているため、不満はない。 ○ 女性の働く場所は少ないと感じる。子育てママに丁度いい勤務条件がない。探すとなれば苦小牧や登別で探している。 ○ 部活や習い事が少ないことによって、将来の選択肢が狭まるのが不安。今後、子どもの成長にあわせて引っ越す可能性もある。 ○ 同級生の数が少なく、勉強についても他のことについても競争ができない。学校統合等、関わる人の数を増やしてほしい。 	
<p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ヒアリングを行った子育て中のお母さん達全員が、現状の子育て支援サービスの内容でほぼ満足しており、また、当町の子育て支援サービスの質が他町に比べ高いと感じている。 ○ 町外から移住した方は、すくすく3・9のような子育て世代のお母さんたちが集う場と、そこから生まれるコミュニティや地域活動など、自己実現のしやすさも魅力として感じている。 ○ 緊急時の医療体制や、子どもの遊べる場の少なさ、少子化に伴う選択肢の減少など、これから子育てするうえで、不安・不満を感じている。 	

団体ヒアリングシート

ヒアリング実施日	令和元年5月30日（木）、6月11日（木）
ヒアリング団体	外国人定住者
テーマ	日常生活で不便に感じること

<ヒアリング要旨>

- 移住した当初は、文化や法律の違いから、周囲の偏見の目を感じていたが、人とのつながりや出会いが環境を変化させ、今は白老が好き。
- 白老は自然が豊かであり、公共インフラも整っているのは魅力。
- 子育て支援については、自国や他の地域と比べて、とても充実している。（託児サービスや母子手帳の記入等）
- 行政サービスは十分であると感じている。ただ、自国に住む両親は病院などの保険が適用されないため、長期間、両親を呼べないのが不便。
- 外国人の受入れ態勢について、永住ビザは煩雑で、かつハードルが高い。町独自の制度構築はできないのか。ビザ発行のハードルが下がれば、もっと外国人が住みやすいまちになれる。
- 温泉が出ることはとても魅力的で、ヨーロッパの人たちは温泉があるという情報だけで旅行に来てくれる。タトゥーでの入浴も可にすれば観光客、旅行客はもっと増える（宗教上、習慣上の都合でタトゥーを入れる国もある）。
- まちの看板（サイン）が非常に少ないように感じる。多言語化も必要だが、まずは、サインの数を増やしてほしい。
- 防災無線や、町のホームページ等の行政情報は不親切である。胆振東部地震の時も、避難訓練の時も日本語が流れているだけで何もわからなかった。
- 防災についての対策は早急にするべき。地震になれていない国の人たちは、地震に遭遇すると興味本位で津波の写真を撮ったりする可能性がある。命の危険に関わることはしっかりと伝わる仕組み・システムづくりが大切。
- バリアフリーの整備が遅れている。車イス等海外のものは日本のものよりも大きい。そのサイズに対応しきれていない。

<総評>

- 外国人の方も含め、誰もが使いやすいバリアフリー整備が必要であるとの意見があげられた。
- 日常生活においては、「サイン看板の少なさ」が、緊急時には、「防災無線や防災メールの内容」など、情報発信のあり方に不便を感じている。

団体ヒアリングシート

ヒアリング実施日	令和元年 6 月 13 日（木）、7 月 8 日（月）、7 月 10 日（水）
ヒアリング団体	若手事業者・経営者（白老青年会議所）
テーマ	町の将来に対する考え方
<p><ヒアリング要旨></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 白老には子どもの遊ぶところがないとよく聞くが、意外と多い。 ○ 田舎なところが白老の良さ。札幌は一見便利なまちに見えるが、白老に暮らしていても様々な面でさほど変わらない。むしろ子育てをするうえでは白老の方がいい。 ○ 人口減少、少子高齢化が進む中で、町としての存続が一番の心配。 ○ 卵業界はすでに飽和状態にあり、これからどうなるか不安。 ○ オックスフォード大学が認定したあと 10 年で無くなる職に、土木関係の職も入っている。AI（人口知能）などが普及していけば益々土木業界が危ぶまれる。今では現場でドローンの導入や重機の遠隔操作が普通になってきている。選択と集中が求められる。 ○ 生産現場は「汚い」、「臭い」といったイメージが強く、担い手がなかなか見つからない。農畜も含め農業の業界は厳しい。 ○ モノや情報があふれた時代において、生産現場にはなかなか目が向けられない。しかしシュークリーム等の加工品が成り立つのは生産現場があるからこそ。 ○ 働いている人が夢を持てるような企業づくりを目指したい。 ○ 例えば、象徴空間開設の関係で誰かが儲け、その儲けた人を、ひがむようなまちにはなって欲しくない。 ○ 若者がまちで起業等、何かにチャレンジする際、口を出さず、そのチャレンジする姿を支えてくれるようなまちになってほしい。 ○ 今の白老は一部の声の大きい人の考えや意向に沿わないだけで、全てがダメになる印象を持っている。そうではなく、物事を可能にするために前向きに話し合えるまちづくりが理想。 ○ 地域おこし協力隊の人も、この町で暮らそう、生きようと覚悟を決め、移住し活動している。その覚悟を住んでいる人たちがどう受け止めるか。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ヒアリングを実施した方々は、白老出身・白老育ちで、一度は親元を離れる（大学進学・就職等で）が、親の跡を継ぐためUターンで戻るパターンが大半であった。 ○ 現在 20～30 代の経営者にとって、幼い頃と今の町の状況を比べて人口減少等、地域の衰退に対して危機感を持っており、各業界ともに担い手不足が課題として出された。 ○ 一部の若手経営者からは、一部の年配の有力者により物事が決められることや、その意向に沿わないと物事がうまく進まなくなるといった独特の環境があることも課題として挙げられ、前向きに若者がチャレンジできる環境や話し合える場を求める声もあった。 ○ 今回ヒアリングを実施した方は白老青年会議所に所属し、仕事以外にまちづくり活動をしていることもあり、青年会議所内や他地域の青年会議所とのつながりはあるが、その一方、近所や地域コミュニティとの関係性はほぼ皆無という状況もあった。 	

団体ヒアリングシート

ヒアリング実施日	令和元年7月3日(水)
ヒアリング団体	役場若手職員
テーマ	地域との関わり方に対する考え
<ヒアリング要旨> <ul style="list-style-type: none">○ 地域との関わりについて、大きい市町と比べると、福祉分野では白老町の方が町民との距離が近く、接しながら仕事ができる。○ 町民との関わりが希薄な部署であっても、フレンドリーに声をかけてくれる町民がおり、親しみがある。○ 子育て支援が手厚いと感じており、また町民からもそういった声をよく聞く。○ 自然と、おいしい食べ物が白老町の魅力だと思う。○ 夏は涼しく、冬は雪が少ない。住みやすい気候だと思う。○ 町民同士の近さ、つながりの強さは町の良いところ。○ 以前別の職場で働いていたが、研修の機会等、様々な要素で白老町は自分のレベルアップに適していると感じる。○ まだまだわからないことが多く、研修等利用して少しでも町のためになる仕事ができるようになりたい。○ 日用品は町内で購入しているが、食品は苫小牧で購入することが多い。○ 友人等が町外に多いため、休日は町外で遊ぶことが多い。○ 町内で遊ぶことは少ないが、苫小牧等周辺で遊べるため、住んでいて不便を感じることはない。○ 白老町を都会と認識しているわけではないが、立地のおかげか、そこまで田舎とも感じていない。○ 町内会に入っており、極力活動には参加するように心掛けているが、時間等の都合で参加できないことが多い。○ 町の将来について、出生数の減少に不安がある。小学校入学前に転出してしまう人も多い。	
<総評> <ul style="list-style-type: none">○ 今回のヒアリング対象は、白老出身者が1名で、それ以外は町外者である。○ 町の魅力や良さに町民がフレンドリーなこと、町民との距離の近さが挙げられたが、一方で日常生活における地域との関わり(町内会等)はほぼ無く、買い物や遊び等含めて、その生活圏が町外にあることがわかった。	

団体ヒアリングシート

ヒアリング実施日	令和元年5月30日（木）、6月6日（木）、6月11日（火）
ヒアリング団体	移住者（地域おこし協力隊）
テーマ	外から見えた白老町の強みと弱み
<p><ヒアリング要旨></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 移住してきた当初は、人との距離感の近さに驚いた。ポストの中に近所の方の野菜が入っていたこともあった。 ○ 気候も人も穏やかなまちという印象。 ○ 食材も豊かであるため、お裾分けしやすい（同じものばかりに偏らない）。 ○ 町民が良く使う「なんもだよ」という言葉には貨幣経済では表せない価値がある。 ○ 都会にいる人には田舎に住みたいという欲求はある。その欲求に応えられれば移住者はもっと増える。 ○ 空港も近く、特急も停まり、高速道路のインターもあり、立地がよい。 ○ 移住を考えている人に対しての情報サービスが少ない。 ○ 企業ではなく、どこでも働ける人を探してきた方がいい。そういった人たちに「白老のライフスタイル」や「人との交流」を見せることで移住してくれる可能性は広がる。 ○ 白老町の場所（立地）やコト（国立博物館開設）だけでは人は来ない。「交流」が大切。 ○ 完全な移住まではいかなくても、年に数回来てくれれば、そこから関わりが増えプロジェクトが生まれることもある。 ○ ベースにはコミュニティがあり、そこでの交流からプロジェクトが生まれ、結果としてビジネスにつながることもある。 ○ 企業を誘致するとその企業色により、町に偏りが出ることがある。人の呼び込みには偏りがでにくいいため、町に多様性も生まれる。 ○ 「仕事が無いから若者は出ていく」と言うが、今は、会社や企業に所属する必要がない時代である。「働く場所」ではなく「仕事ができる人」を呼び込む。 ○ 東京の企業に所属しているが、東京に住んでいなくても働ける人はいる。そういった人を呼び込むことにより、東京から出たお金を、白老に落とすこともできる。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「情報発信のあり方」と「人材誘致」について共通の話題が出た。 ○ 外から目線で、白老町にある様々な強みや魅力（人、自然、文化、国立博物館、気候、アクセス等）に惚れ、協力隊として赴任したが、町に来てわかったのはそれらを十分に活かしてきていないことだった。 ○ 移住も関係人口の拡大も、「コト」だけの情報では人は来ず、人との関わり（地域コミュニティ）や白老に来て何が出来るか等の具体性をイメージできる「情報発信のあり方」がより重要とのことだった。 ○ 企業誘致で雇用創出という考えも重要であるが、企業誘致は大きな投資や誘致した際、町内に企業色が強くなる（偏りが出る）などの課題もあり、「町内に仕事がない」のではなく、今後は、町としてどのような人材を欲するかを明確にした「人材誘致」の考え方と、その誘致による町の人材の多様性の確保が重要であるとの話があった。 	

団体ヒアリングシート

ヒアリング実施日	令和元年 8 月 21 日（水）、8 月 23 日（金）
ヒアリング団体	一次産業（漁業）（J F 青年部・OB）
テーマ	一次産業の将来に対する考え方
<p><ヒアリング要旨></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 漁師を始めたころと比べて、環境・水温の変化からか海の状況は大きく変わった。 ○ 昔は定置網漁業で海に出れば大きな稼ぎになった。 ○ 現在はスケソウダラや毛ガニが全く獲れなくなってきている。 ○ 白老と虎杖浜はスケソウダラのまちだから、この魚種が獲れなくなると厳しい。 ○ 北海道に出回る魚は道内で水揚げされる魚と本州から流れてくる魚が半々くらいの割合で流通している。 ○ 北海道の水産業は本州より遅れており、今後も漁師としてやっていけるか不安である。 ○ 新規就農は土地さえあれば個人でも始めることができ、ある程度までの目先の計画も立てられる。新規漁業就業はそうはいかず、漁業権の「権利」のこともあり、誰かしらの親方のもとにつき、腕を磨き、一人前にならなければならない。 ○ 農業は自動化やA I 技術が進んでおり、無人でも作業が成り立つ時代であるが、海が相手の漁業はそうはいかない。 ○ 付加価値をつけるために船上活締めなどの取組を行ってきたが、室蘭市場では傷物扱いで付加価値がつかない。 ○ 養殖事業も含めて、何か新しいことをやろうとすればリスクが伴うが、誰かが実践し成功すれば続く人も出てくると思う。 ○ 組合員としてではなく漁師も個人経営の時代がやってくるかもしれないが、片手間で食品加工はできない。 ○ 食育はとても大切だと思う。魚の食文化が薄れていく中で子どもたちに知って食べてもらうことの意味は大きい。 	
<p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今回、漁師を初めて約 20 年の経歴をもつ組合員にヒアリングを行った。漁師を始めたころから現在に至るまで、大きくまちの漁業が変化していると感じている。その中でも、経営的要素や担い手不足等、様々なことが起因する「将来のまちの漁業への危機感」が挙げられた。 ○ これまで、まちの水産業はスケトウダラ漁や毛ガニ漁が主要魚種として栄えてきた。しかし、年々、いずれの主要魚種も獲れなくなってきている。30～40 歳代の漁師の方々は、今までのように「獲る」だけの経営では立ち行かなくなるのではと強い危機感を感じている。また、その危機感は、年配世代より、若い世代の方が強く感じている。 ○ 漁獲した魚の船上活締め・神経締め等の付加価値・差別化の取り組みも、漁師だけで可能となるものではなく、仲買人や漁業組合等が一丸となる必要性もあげられた。 ○ 担い手不足の解消に向けては、漁業権のハードルが非常に高く、その点も個人では解決できないことから関係機関の連携の必要性もあげられた。 	

団体ヒアリングシート

ヒアリング実施日	令和元年 8 月 27 日 (火)
ヒアリング団体	一次産業 (畜産業) (JA 青年部)
テーマ	一次産業 (畜産業) の将来に対する考え方
<ヒアリング要旨> <ul style="list-style-type: none">○ 家業が畜産関係の仕事についており、一度は白老町を出たが、跡を継ぐために戻ってきた。○ 牛を相手にしているため、休みの日はほとんどない。休みがあれば、札幌や苫小牧に飲みに行くくらい。○ 地域活動では消防団には所属しているが、それ以外は特段ない。○ 生き物を相手にしており、基本的に休みはない。同業者 (畜産業界) 以外との交友・交流はない。○ 牧場とレストランの経営安定のためには、白老牛の発展が不可欠であり、PR 活動等、今後も積極的に行う必要がある。○ 今後は海外からの安価な食肉が輸入されることで、国産の食肉の消費が落ち込むことが予想される。○ 生産者としては、価格には負けない強みを発信して消費者にアピールする必要がある。○ 担い手不足も顕著であり、AI の導入等、今後解決策を検討しなければならない。	
<総評> <ul style="list-style-type: none">○ 肥育からレストランでの販売までを手掛ける生産者は、将来ビジョンとして、白老牛の他国産和牛との差別化や、海外の安価な輸入肉との差別化、白老牛の更なるブランド化が必要であると感じている。○ 同じ世代の同業者であっても、消費者が間近に見える状況であるかどうかで、温度差もあり、個人畜産は繁殖、企業畜産は肥育に注力する「役割の二分化」をどう変化させていくかが、今後の白老牛のブランド確立に向けた課題である。○ 牛を相手にしていることもあり、多忙であることから、近所づきあいや他業種との同世代の交流はないこともわかった。	

団体ヒアリングシート

アンケート期間	令和元年7月29日（月）～8月9日（金）
調査団体	町内会長（町内会に対するアンケート調査）
テーマ	町内会における今後の課題
<調査結果要旨> <ul style="list-style-type: none">○ 若い世代、転入者の加入率が低く、次の世代への引継ぎが困難である。○ 会員の減少に伴い、役員のみ手や活動資金が不足し、町内会活動が停滞する恐れがある。○ 高齢化により、行事へ参加する際の足の確保が必要となる。○ 独居高齢者や老老世帯の見守りなどの共助や、行政との連携が今後ますます重要となる。○ 草刈りや公園の維持管理等は行政と連携が必要となる。○ 今後、会員の減少等により、町内会の運営が困難になってくるため、町内会の統合が必要である。○ 行政からの仕事を減らしてほしい。求められる部分は大きいですが、高齢化により対応できなくなっている。	
<総評> <ul style="list-style-type: none">○ 各町内会共通の懸念事項として、人口減少・高齢化を背景とした町内会員数の減少があげられた。加えて、若い世代や転入者の加入率が低く、活動の停滞、役員の手不足、活動資金（会費収入）の減少等があげられた。○ 町内会の負担軽減や町内会の統合を求める声が多く、町内会の維持・存続について検討していく必要がある。○ 独居高齢者の見守り等、今後、町内会の役割はますます大きくなっていく。若い世代の加入率の改善等、町内会活動・コミュニティの活性化に向けた取り組みを進めていかなければならないと感じている。	

町内会アンケート結果

問1. 人口減少や高齢化が進むと、町内会としてどのような課題や障壁が生じると考えられますか。

1. 会員の減少・未加入の増加

- ① 各町内会の会員が減少する。
- ② 町内会の高齢化がますます進行することによって実際に活動できる人員が不足する。
- ③ 本町町内会は古くからまちの中心でした。現在は栄町と隣り合わせで商店や郵便局等があり問題はあまり感じておりません。若い世代や転居等で来られた方々が町内会に加入しないことが課題であるととらえています。
- ④ 現在 60 世帯ありますが、44 世帯が 65 歳以上の高齢者世帯です。後 10 年もすればどうなるのか、非常に不安です。
- ⑤ 現在でも町内会からの脱会者が出ており、年々会員数が減少している。別荘所有者も高齢となり、家の管理が出来ず廃屋同然の所もある。今後はさらに速度を増して町内会が小さくなり、町内会が消滅する。
- ⑥ 会員が少なくなれば皆が結束してやる気が起きる。
- ⑦ 人口減は誰にも止められないし、手の打ちようがないので、自然体で行くしかない。

2. 町内会事業・活動の減少・関心度の低下・機能不全

- ① いろいろな事が出来なくなる。
- ② 白老第3町内会は企業・個人事業主と個人宅で構成されている。今後、この比率がどちらか一方に偏ることも予想される。このため従来型の個人宅を中心とした町内会活動が困難となることが予想される。
- ③ 地域住民、町内会員が活動に対する関心低下するのが心配されます。
- ④ 人口減少により町内会活動（資金、人材など）に支障がでてくると考えられる。町内会の統合（合併）や事業の縮小、限定的な活動しかできなくなることが懸念される。
（例えば、町内会での広報配布の廃止、早朝ラジオ体操の中止など）
- ⑤ 町内会活動ができなくなることが考えられる。
- ⑥ 高齢化に伴う役員の動員も難しく葬儀等においても斎場にたのみ葬儀委員長として会場にてあいさつをする（会長が）。
- ⑦ 独り住まいや高齢化により交流や外へ出たがらない人が多くなり孤独死などが出たら困る。
- ⑧ 行事をするにしても高齢化もあり意識・感心がうすい。

- ⑨ 隣近所のつきあいがうすれて、町内会の事業・行事への参加者が少なくなっていくのでは。
- ⑩ 1. 役員のなり手が不足する。2. 独居の高齢者が増えて見守りができない。3. 空き家対策で環境整備がしにくくなる。4. 町内会という共助の組織ができなくなる。
- ⑪ 当然のことながら会員の高齢化が益々進み、役員も高齢化しなり手もいなくなる。また、会員の減少により収入（活動資金）が減少し、町内会活動を進めることが不可能になる。
- ⑫ 高齢化が進んで町内会の戸数の減少で運営ができなくなる。
- ⑬ 少子高齢化は、大きな問題だと思います。行事に参加する人たちも高齢で足が進まないことがあります。若い人達も自由に各自で色々な所へ行くことが出来るので町内会行事に参加してこない事もある。この先、活動資金不足も考えます。
- ⑭ 町内会の崩壊とスラム化。
- ⑮ 公住120世帯、戸建て50世帯あったものが、近々戸建て世帯だけが残る可能性が考えられる。従って役員体制を作り直し専門部などを最小限にし、日常的なつながりを大切にしていくことしか考えられない。
- ⑯ 単位町内会としての自立企画運営が難しくなる。各行事参加の為の足の確保。（課題）町内会の統合をいかに進めるか。（障壁）
- ⑰ 2040年、自分も含め現状ではほとんどの会員が活着しているかどうかとも考えられず、町内会は崩壊状態になっていると推測する。現状では若い会員に託したいと思っているが、なかなか町内会活動に参加してもらえず、どうにもならない状況にある。
- ⑱ 町内会が維持できるか。
- ⑲ 20年後町内会は存続されていないと思われます。
- ⑳ 町内会としての機能が果たせなくなると思います。
- ㉑ 町内会に参加しなくなる。
- ㉒ 現行での単一町内会の運営活動は停滞が必然と思いますが、統合再編は勿論の事、それと同時に町内会の存続の危機が高まるような気がしますが、先のことは判りません。
- ㉓ 課題というよりはむしろ町内会が存続できるかどうかだと思う。
- ㉔ 高齢者の援助等を町内会の少ない若者で対応するのが非常に困難になる。
- ㉕ 20年先の減少より、3～5年先で町内会として成り立っていくか心配です。町内会役員の確保が出来ない。単独で町内会運営できなくなる。
- ㉖ 町内会の存続が難しくなる。
- ㉗ 町内会の運営、活動ができなくなると思ふ。町内会の解散を臨む会員が今でもいる。
- ㉘ 今後の町内会のあり方について、世帯数の減少に伴い考え直さないといけないと思います。
- ㉙ 全ての活動が縮小または出来なくなる。
- ㉚ 現状のままでは消滅する。
- ㉛ 町内会活動の縮小、空き家の増加、商店の減少に伴う買物の不自由さが増大。
- ㉜ 当然ながら町内会が成立しない状況が想定されます。

3. 町内会の統合

- ① 地域形態を考え、町内会の合併を考える。
- ② 単一町内会の活動はできない。したがって町内会統合が必要となってくる。
- ③ いまの町内会での運営はできないので合併を行うとよい。
- ④ 1. 町内会合併 2. 空き家、空き地 3. 高齢化率が高くなる介護
- ⑤ 現状から考えても、この町内会は20年後くらいには他の町内会と合併していると思います。
- ⑥ 町内会の数を少なくし、運営しやすい数にしてほしい。
- ⑦ 町内会が合併という形を取らないとやっていけなくなると思います。
- ⑧ いずれは合併とか合同とか、そんなことになると思う。飛生地区も隣の日の出と合併の話が出て、協議をしています。

4. 新たな組織の検討

- ① 町内会自体が機能できなくなるので新たな組織をつくる検討が必要。
- ② そうですね。2040年の人口は約7700人になると言われるのですが、ちょっと考えるとそのころの人口は昭和25、6年の人口だと思います。と、思うには、町内会を昔の組織にしたらと思います。

5. 行政負担の増加・行政との連携

- ① コミュニティ不足により孤立化が進み救急体制による行政負担の増加。
- ② 今後は回覧、広報等、検討していかなければならない。
- ③ 町内でやるのは難しいと思います。町で運営してもらうことになるかな。
- ④ 1. 泉源が枯渇した場合、町内会が存続されるのか不透明である。2. 萩野駅から北西に約3km以上離れている地域にあり、高齢化と共に公共交通機関の削減等で居住環境が最悪化している。介護と福祉の両面が浮き彫りになるのではないかと。3. 不在地主の草刈り、空き地の草刈り、公園の維持管理、会館の運営管理等すべてにおいて行政との連携が不可欠となる。

6. 町内会の負担軽減

- ① 各町内会に求めている部分が多いが高齢化している町内会が多いのもっと簡素化してほしい。
- ② 町内会は地域自治のための任意団体であり、ボランティア的な役員で構成されている。国の官僚が枠組みを作り、自治体が従う方法で町内会は下請け的な活動が多くなっているか。隣組の名残により（70歳代以上）役場からの通達指示事項を伝達する最小組織

となり、伝達方法として回覧板と呼ばれる方法を取っている。地域で何が問題となっているか集団で決め事は慎重に、それぞれの町内会では事情が違う（現状回覧板を渡すのが困っている（高齢化）、また回してほしくない方も出てきている）。

- ③ 町内会の仕事を減らすようにしたい。行政からの仕事が多すぎる。

7. その他

- ① 自立の精神で他に頼りすぎる考えは破たんする「人も町も国も世界も」。
- ② 温泉団地2ヶ所が町内会の構成となっております。枯渴の事情が無い限り、問題はないと考えます。
- ③ 町内会人口 103 名。年とともに老人ホームに入られ、また毎年数人の方がなくなられます。空き家になっても温泉があるためか、新しい人が入居されています。少子化問題は町内で話題にもなっておりません。
- ④ 基本的には町長をはじめ役場の上層部がしっかりと中長期計画を策定し、1年毎にしっかりとした方針を出していくべきと考えるが、いかに白老の町に人間が住んでもらえるような仕組みが必要と思う。たとえば福祉と介護のまちに。
- ⑤ 人のことより自分の生活（病院が多い）で手が回らない。
- ⑥ 人口が三分の一になって、同じことをやろうと考えること自体おかしい。高齢過疎の社会では。
- ⑦ 電気（パネル）ばかりが多くなり交通にも何か事故にも見遠しが悪く思えます。若い人の働ける所があれば、土地を大切に。
- ⑧ 役員のなり手がなく、町内会の解散も有り得る。高齢者を見守る（比較的若い人）が不足する。事業を遂行できなくなるので、総会位しか出来なくなる。
- ⑨ 自分中心の考え方が強くなり、地域全体のことは自分に直接関係ないと思える人が多くなる。

問2. 課題や障壁に対して、今後の町内会のあり方についてどう考えていますか。また、どのような取り組みに注力していかなければならないと考えていますか。

1. 町内会の維持不能

- ① 町内会としての組織は維持できない。
- ② 地域の形態がどのようなものになるか予測が困難であり対応は難しいと考える。
- ③ 再編を余儀なくされるが運営できるのか未知数である。
- ④ 新しい世帯に期待するが以前のような町内ではむりの感がある。高齢化に伴い子供達のところへの移動も目につく。
- ⑤ 高齢者と防災のみの活動を最重点とした運営のみしていくことになるのでは。
- ⑥ 若い人は協力しないので高齢者で協力しなければならない。
- ⑦ 現在行っている諸行事の減少等を考えています。
- ⑧ 子どものいる家庭が無い。(若い人がいない)
- ⑨ 私が70歳になり、次の人に役員をお願いしたいが、協力が得られない。今のままだと自然消滅しかねない。
- ⑩ 買い物難民の増、空き家の増、空き地の増、下水道、水道の維持問題、見守り。

2. 地域コミュニティづくり

- ① 魅力のある町地域作り、住みやすい環境作り、地域を超えた交流。
- ② 心配されることは、事業の縮小などにより発生するコミュニティ意識の低下です。町内会の会員がお互いに顔を合わせる事業は「続けていきたいと考えます。
- ③ 高齢者でも楽しめる、あまり準備のいらぬものを考える。
- ④ 町内会での高齢者クラブの活用、内容の充実を計っていきたい。栄町では、第1、第2、第3町内会、在任者で60歳以上の方で栄寿会に加入し活動している。
- ⑤ 町内会活動に努めて、参加の呼びかけ。
- ⑥ 高齢者に対して参加しやすいお茶会みたいなことをする。若い人たちには白老町内会での思い出づくりを考えていきたい。子供達には大きくなったときあの時の町内会は良かったと思われるような行事をやりたいです。
- ⑦ 高齢化による諸問題への対応を役員会で検討していく。買い物、車の免許返納、見守りなど、生活対策が当面はある。また、町広報の配布については、班長の高齢化から極力軽減策を進めたい。
- ⑧ 独居家庭、介護の方々など高齢化町内会として、見守り、「向こう三軒両隣」「あいさつ運動」を重視し、行政との連携強化がより重要。
- ⑨ 会員が少なくなれば声も掛けやすいし、隅々まで目が届く。
- ⑩ 町に頼らない独自の自治会にしたいと考えています。

3. 会長職等の公職化

- ① 会長・総務等を、町の準職員として、統制を図る。

4. 新たな方策の検討

- ① 会員が減少するとこれにあわせた事を考える。
- ② 新たな方策を考える必要がある。
- ③ 人口減に伴い個人宅が減少することが予測され、地域コミュニティとしての町内会の在り方を根本的に見直す必要があると考える。
- ④ 町内会の見直し。
- ⑤ 連合町内会とまちが課題を共有しながら今後の町のあるべき姿を町が先頭に立って町内会再建（案）を示すべきではないだろうか。

5. 町内会の連携強化・統合

- ① 単一町内会の活動はできない。したがって町内会統合が必要となってくる。
- ② 他町内会と合併し町内活動を共に進めていくことが必要だと思います。
- ③ いまの町内会での運営はできないので合併を行うとよい。
- ④ 町内会統合をそう遠くない時期に進めることになると思いますが、まずは役員でその認識を深めて準備をする必要がある。統合としては地区町内会連合会が良いと考えている。
- ⑤ 町内会の統合も視野に入れなければならない。
- ⑥ 町内会の合併が必要と思う。
- ⑦ 後 20 年後、世代交代の中での町内会活動としての継続事業はなされていかなければならないと思いますが、近隣町内会との連携強化に努めていく必要があると思います。
- ⑧ 統合して適合した数にしてほしい。
- ⑨ 5 年毎に町内会の統廃合をしていくこと。
- ⑩ 虎杖浜は 20 年後に 300 世帯、500 人くらいの人口になると思われる。町内会を維持する為に統合するしかない。
- ⑪ 隣接する町内会との共同等。
- ⑫ 町内会合併も当然考えられます。転入者がいましたら歓迎したい。

6. 行政の直営化・指導

- ① 行政の直営化。
- ② 町内会の PR や運営の指導。
- ③ 萩の里会館（自主運営としての）の行政への返還、行政運営による集会所としての機能を望みます。

7. その他

- ① この問題は大事と思うよ。町民個々の考えが違うと思いますが、私は人口の問題と経済の問題と同じだと思います。両問題ともじんこうと経済は風むきによってかえると考えます。と、すると町内会は町内会の方に風向きをかえること大事と考える。
- ② 問3の課題は日本の国の大きな流れの中での現象なので町内会だけの取り組みではどうしようもない。2040年にはこの回答本人はいないと思う。従って少なくとも町内会の会員についての情報は、事務局で把握しておく必要がある。
- ③ まずは人口が減らない政策を採ってほしいと思います。
- ④ 高齢化、人口減少はとめることが出来ないが、温泉地域においては外国人の流入が増す。又不動産業者による借家事業も増し、住民の非定着（住）化が進。今後の対応・取組みについて想像できない。
- ⑤ 健常者、高齢者は自助、共助をモットーに行動するように。また要援護者を特に日常的に気配りをする。
- ⑥ 少子高齢化は何十年前から報道され、今回も同じ事を言うより、行政がしっかり対策を考え方針を決めて各町内会と話し合うべきだと思います。
- ⑦ 必ず高齢化になっていくので、ケアハウスの町白老にできるよう、進めていければと思います。人口 7,700 人となると、スーパー、病院など諸機関が難しい判断になると想定される。
- ⑧ 町内の企業、会社に対し、町内会活動への協力要請。（意識付け）
- ⑨ 今後は特に孤立する人が増えてくると思うので、その対処をしっかりとっていかないとだめだと思います。
- ⑩ 広い土地きれいな水もあるのだから何かよく考えて。会社を作る。商品。
- ⑪ 買い物難民の増、会員同士の互助助け合いの精神を促すようなアイデアが自分にはない。何か良い方法があったら教えて欲しい。